


クラス	C104	担当教員	中野 諭
	テーマ	経済学で社会を考えてみよう	
	著書・論文 研究課題等	現在の研究課題は、技術とイノベーションの経済分析、 環境とエネルギーの経済分析、 消費者のライフスタイルの経済分析 など	

ゼミナール概要

【キーワード】 疑問をもつ、経済学的思考

【目的、内容、方法等】

我々が社会のできごとの情報を目の当たりにした時、驚き、同情や共感、喜怒哀楽といった様々な感情をもつだろう。あるいは、特に感情も抱かず、その情報を鵜呑みにしているだけかもしれない。

なぜそのような仕組みなのか、なぜこのような問題が発生したのかといった素朴な疑問をもつことはほとんどなく、疑問をもつことは意外と難しい。それは、我々が疑問をもつ教育を十分に受けていないからである。

本ゼミナールの活動を通して、社会のできごとに疑問をもってみよう。

もちろん経済学の考え方だけで社会のできごとをすべて説明することはできないが、インセンティブや合理性といったキーワードを手がかりに考えることは、社会の仕組みを理解する助けになる。

本ゼミナールでは、概ね 2～3 年生の時に、文献講読（2020 年度の専門演習 I では、新薬認可、犯罪、金融、福祉、保護貿易、環境問題などのテーマを扱った）、新聞・ニュースや統計データの読み解き、統計学や計量経済学を用いた分析方法の実習などを通して経済学でものごとを考えることを試みる。それらの活動を踏まえて、3～4 年生の時には各自で分析テーマを選び、議論をしながらレポートや論文を作成する。いずれについても、皆さんによる主体的な活動である。

なお、上記以外の活動については、皆さんと話し合っ決めていきたいと考えている。

参考文献：

- ・中島隆信（2006）「これも経済学だ！」ちくま新書
- ・中島隆信（2014）「経済学ではこう考える」慶應義塾大学出版会

【使用テキスト】

未定（2020 年度は、ロジャー・ミラー他（1995）「経済学で現代社会を読む」日本経済新聞出版社を使用した）

担当教員からのメッセージ

「おっしょるとおり」という言葉を一度忘れ、立ち止まって自分で考えてみよう。なお、皆さんが求めるものと本ゼミナールの活動にミスマッチがあるかもしれないため、関心のある学生は個別説明会に参加すること。